

発行日	令和4年10月31日
発行元	災害対策課
所属長	課長 森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災



令和4年10月号

防災対策情報便

1 地震が発生したときの情報取得方法は？

緊急地震速報とは？

緊急地震速報は、大きな地震が発生したときに、地震の発生直後に地震計でとらえた観測データを素早く解析して、震源や地震の規模(マグニチュード)、予想される揺れの強さ(震度)を自動計算し、強い揺れがくることを事前に知らせる警報です。

また、観測点に強い揺れが到達し、周辺地域にも強い揺れが来ることが予想される場合は、その旨をあわせてお知らせします。



【緊急地震速報】

携帯電話をはじめ、テレビや防災行政無線などで皆様に情報を伝達します。

【地震発生から速報発信までの流れ】(気象庁)

緊急地震速報を見聞きしたときは？

緊急地震速報を見たり聞いたりした際には、周りの人に声をかけながら、「周囲の状況に応じて、速やかにあわてずに、まず身の安全を確保する」ことが重要です。

地震が発生したときの適切な行動は、そのとき、その場所に応じて異なります。日頃から、いろいろな場所で地震が起こったときのことをイメージし、「今、ここで、緊急地震速報を聞いたらどう行動すべきか」を状況に応じて考える習慣をつけましょう。

◆家庭で屋内にいるとき

- 家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。
- あわてて外に飛び出さない。
- 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない。
- 扉を開けて避難路を確保する。

◆人が大勢いる施設(大規模店舗などの集客施設)にいるとき

- あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う。
- 従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる。
- 吊り下がっている照明などの下から退避する。
- あわてて出口や階段に殺到しない。

南海トラフ地震が発生したら・・・



地震発生 揺れを感じたらまず身を守る行動を

突然の揺れ

家庭で 頭を保護して机の下など頑丈な場所に隠れる



屋外で ブロック塀や電柱、自動販売機など、倒れる危険のある場所から離れる



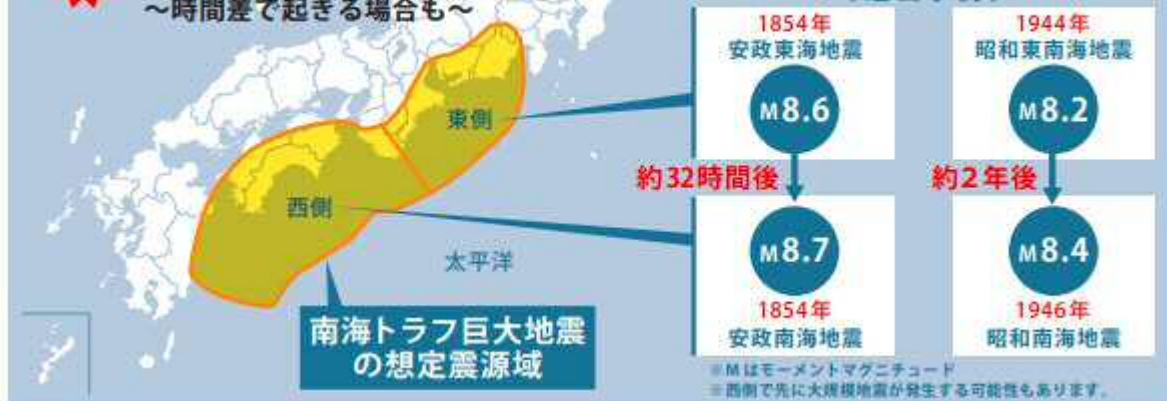
沿岸部で 津波の発生・襲来に備えて、安全な場所に避難する



地震は一度では終わらないかも

～時間差で起きる場合も～

〔過去事例〕



「津波警報」等とは？

海に囲まれた日本では、地震に引き続いて津波が発生し、大きな被害をもたらされることがしばしばあります。

気象庁では、地震の発生に伴って津波による災害の発生が予想される場合、津波の高さに応じて「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」(以下、津波警報等という)を発表しています。

気象庁では、地震発生後およそ3分間で、地震の規模や位置を推定し、全国を66区域に分けた津波予報区に対して、津波警報等の第1報を発表します。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、地震の規模を正確に把握するまでに時間がかかるため、第1報では予想される津波の高さを、大津波警報のときは「巨大」、津波警報のときは「高い」という簡潔な言葉で発表します。

注目!

【津波等一時避難場所の要件】

昭和56年に施行された新耐震基準を満たしている建物

- ・ 鉄筋コンクリート造り等の建物
- ・ 3階建て以上の建物
- ・ 24時間の受け入れが可能



こちらのマークが【津波等一時避難場所】の目印になります。



津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	巨大地震の場合の表現	数値での発表(発表基準)		
大津波警報	巨大	10m超 (10m<高さ)	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。</p> <div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;"> ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！ </div>  <p style="font-size: small;">津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン</p>	<p>木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p style="font-size: small;">10mを超える津波により木造家屋が流失</p>
		10m (5m<高さ≤10m)		
		5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	高い	3m (1m<高さ≤3m)	<p>標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。</p> <p style="font-size: small;">写真：豊崎町提供(2003年)</p> 	
津波注意報	(表記しない)	1m (20cm≤高さ≤1m)	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 	<p>海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。</p> 

出典:気象庁

2 今年も訓練のシーズンがやってきました！

気候が徐々に過ごしやすくなるこのシーズンは防災訓練にうってつけの時期です。毎年、様々な自主防災会で訓練を行っています。

10月16日(日)は三ノ坪で出前講座と避難訓練を、10月23日(日)は武庫川東グランドハイツで防災訓練を行いました。

三ノ坪では、ハザードマップの確認方法を中心に、マイ避難カード(発災時のタイムスケジュールをカードに落とし込んだもの)の作成方法などもご紹介しました。

また、武庫川東グランドハイツでは初期消火訓練をはじめ、歩行訓練などの訓練を行いました。休日にも関わらず多くの様々な世代の方が参加されていました。

災害は忘れたころにやってきます。日頃から災害を意識できるように定期的に訓練などに参加する取り組みが重要です。



三ノ坪の避難訓練の様子



武庫川東グランドハイツの訓練の様子



3 地域の防災 つなぎ隊！！

今回は、武庫第九自主防災会の大鹿さんにお話を伺いました。今回のインタビューで感じたことは、どの自主防災会でも同様のことが言えるかもしれませんが、地域の高齢化問題を意識した地域コミュニティの在り方が問われているのではないかとこの点です。



今後日本は更に少子化が進み、今よりも高齢者が増える中で地域コミュニティをどう広げていき、どのように防災の重要性を地域住民に浸透させていくかが課題となるとおっしゃっていました。

Q 地域の防災活動を行うにあたって意識されていることは何ですか。

A 若い世代の方に地域のイベントに参加してもらうきっかけ作りです。

新型コロナウイルスが流行する前は、地域で餅つき大会や盆踊りといったイベントを毎年行っていました。かれこれ3年ほど行っていないのが、現状です。このような地域のイベントを通して、若い世代と中高生世代が交流していましたが、その機会も無くなってしまいました。

今後、例年行っていたイベントに加えて、若い世代も参加できるような交流の場を設けることで、常日頃から顔の見える関係づくりができるのではないかと考えています。

また、この関係づくりこそが、いざという時に力を発揮して、助け合いが広がるのではないかと考えています。

Q 今後、地域における課題や取り組んでいきたいことは何ですか。

A 地域の高齢化が進む中で、独居老人の増加が問題と感じています。特に周りの住民とコミュニケーションをあまり取らないような方は、どのように生活されているのかといったような現状を把握できないので、そのような方に対してどうアプローチすればいいのかが苦慮しているところです。

個人情報観点からも、行政側に情報提供してもらうこともハードルが高く、今後アプローチの手法を検討していきたいと考えています。

